

イタリアと日本の地域再生まちづくり：継承と再生デザインに関する研究

—土地や暮らしに敬意を払った設計を目指して—

研究背景

3.11の東日本大震災の被災地では、大地震と津波による横滅的な被害を受けた沿岸部の一帯も含め、「復興」と「再生」の実現や地元住民のための蘇生が求められた。漁港オブザーバー（アマの漁港）の対話を通じて、更地や海岸部で構築の記録（記録）などを学び、震災後も住民に愛され続けることができるか探求する。

イタリアと日本の復興都市・集落の中から、震災前におけるまちの運営関係の大さく異なるものを探する。具体的には以下の3種類である。

- ①既存活用型（日本）：既存の建物や施設をそのまま利用する（移転）。
- ②近隣移転型（イタリア）：既存の建物や施設を他の場所に移す（再利用）。
- ③全村移転型（イタリア）：既存の建物や施設を他の場所に移す（新規開拓）。

研究や考案をふまえて、土地や暮らしに敬意を払った設計手法を示し、日本の復興・地域住民に愛されるまちづくりとしてふさわしいものかどうかを検討する。

イタリア・日本の6つの都市集落 繼承と再生デザイン手法の理解

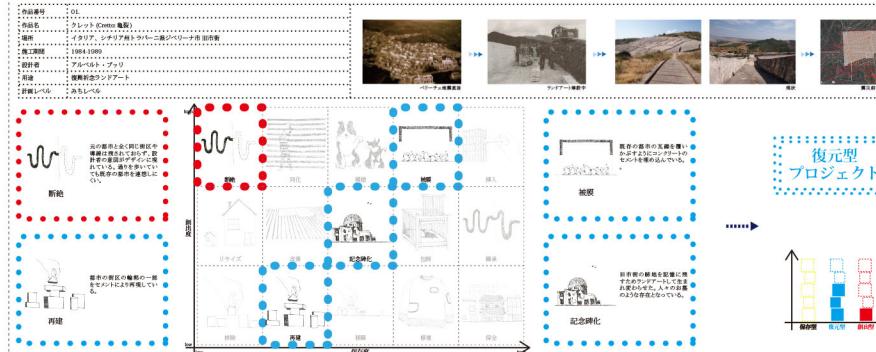


— 6つの都市集落まとめ —

- 新市街建設の際には、その地ならではの建築デザイン要素の継承に限らず生活様式の継承も重要。
- その地に根付いた建築を継承する際、モデルタイプを作成してまとめてはかるだけでなく、個々の世帯が持つ個性を生かした設計が重要。

6つの都市集落の分類

分類例_6つの都市集落分析から得た15の要素を元に「保存型」「復元型」「創出型」に分類する。



プロジェクト分類を踏まえ、各都市の復興計画を分類する。旧市街では保存型、新市街では創出型の計画が行われていた。

移動方法	全村移転	近隣移転	既存活用	全村移転	近隣移転	既存活用
都市集落	シベリーナ市	ボッジョアーレ市	サレミ市	十二平集落	木能集落	門前町黒島町
現状	復元型復興計画	保存型復興計画	保存型復興計画	保存型復興計画	保存型復興計画	保存型復興計画
旧市街						
新市街						

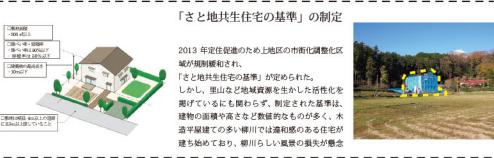
— 小結 —

復興・デザインを考える際には、その土地の風土に適した建築デザインの継承に限らず、地域住民の生活様式や日常における様々な現象・人間関係の仕組みやその築き方、地域や街路を象る構成要素など、設計者はその土地に存在するすべてのものを利用した上で、継承・再生・デザインを考えることが、時を経ても地域の人々に愛され続けるまちや建築を築くために重要。

「土地や暮らしに敬意を払った設計」が重要



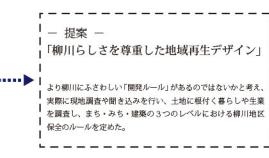
計画敷地_神奈川県秦野市上地区柳川



「さと地共生住宅の基準」の制定

2013年度の実証実験のための市町村の市町村調整区域が認可申請がされ、「さと地共生住宅の基準」が定められた。

しかし、里山など緑地資源を生じた活性化を開拓するに開拓せず、創造された標準は、建物の高さと高さなど緑地資源などのインバウンド開拓に対する影響を防ぐため、木造平屋建ての多く「柳川市」は緑地のある住むが建ち始めており、柳川らしい風景が形成

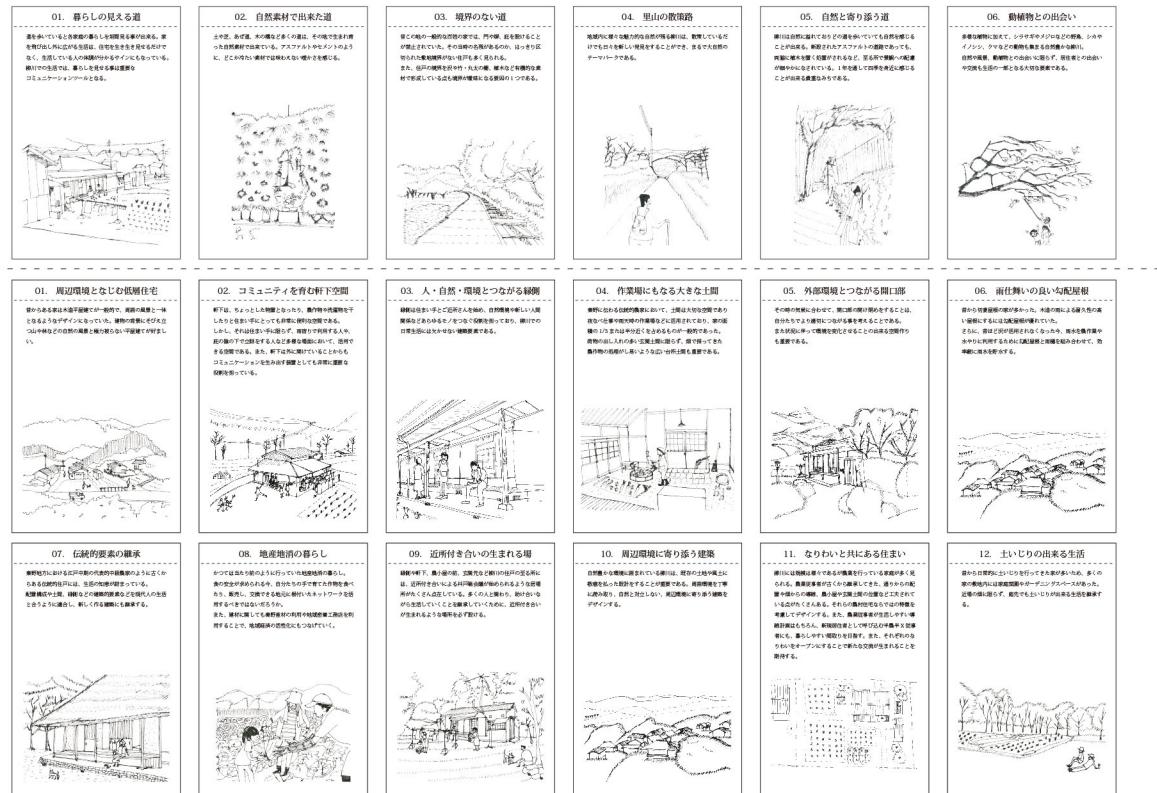


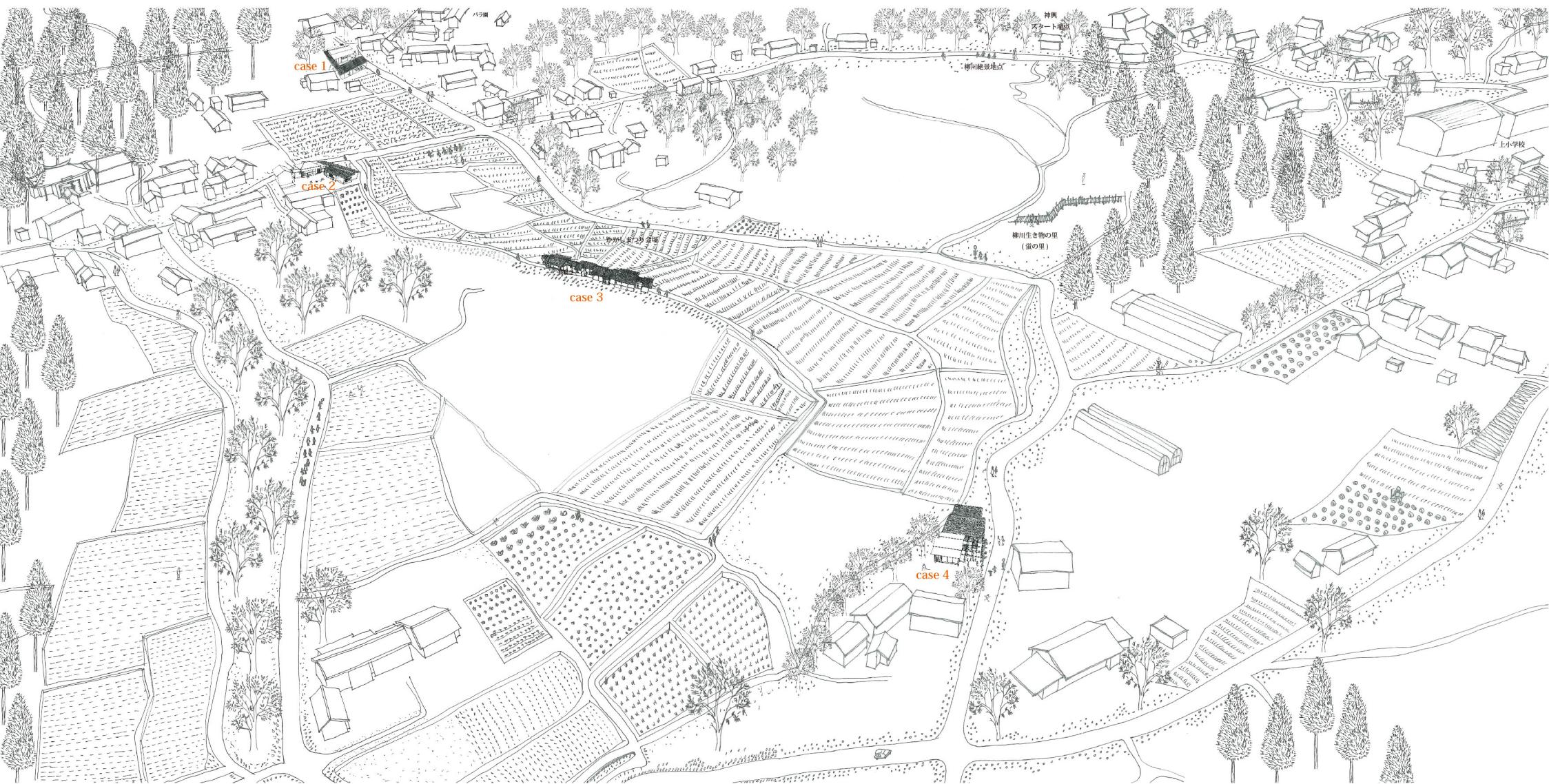
より柳川にふさわしい開拓ルールがあるのではないかと考え、実際に規制緩和や見込みを行い、土地に根付く暮らしや生活を保護し、また、彼らの建築の3つのレベルにおける柳川地区保護のルールを定めた。

まちレベル

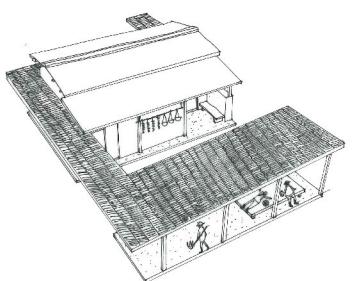


みちレベル

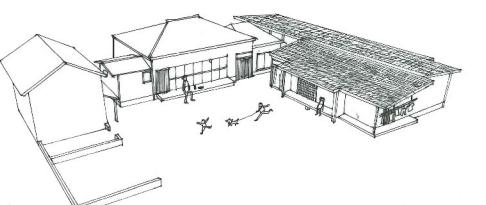




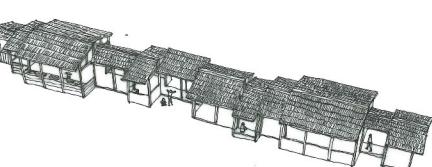
case 1 農業体験時の活動拠点となる農小屋広場



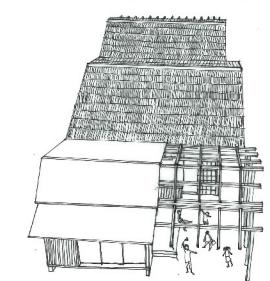
case 2 里山散策の拠点となりうる共同キッチンを持つ2世帯住居の増築



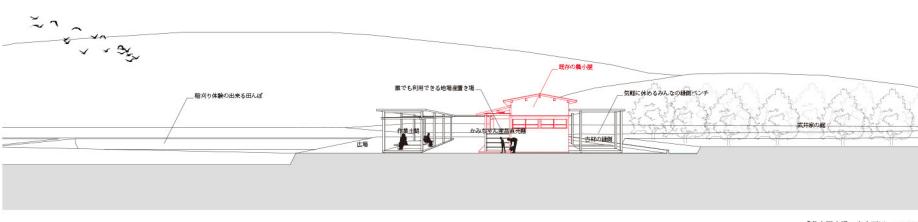
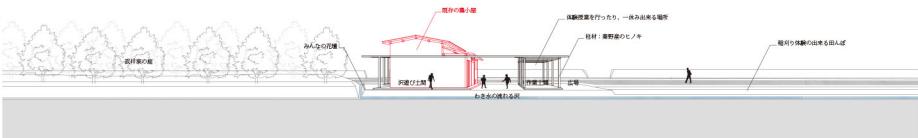
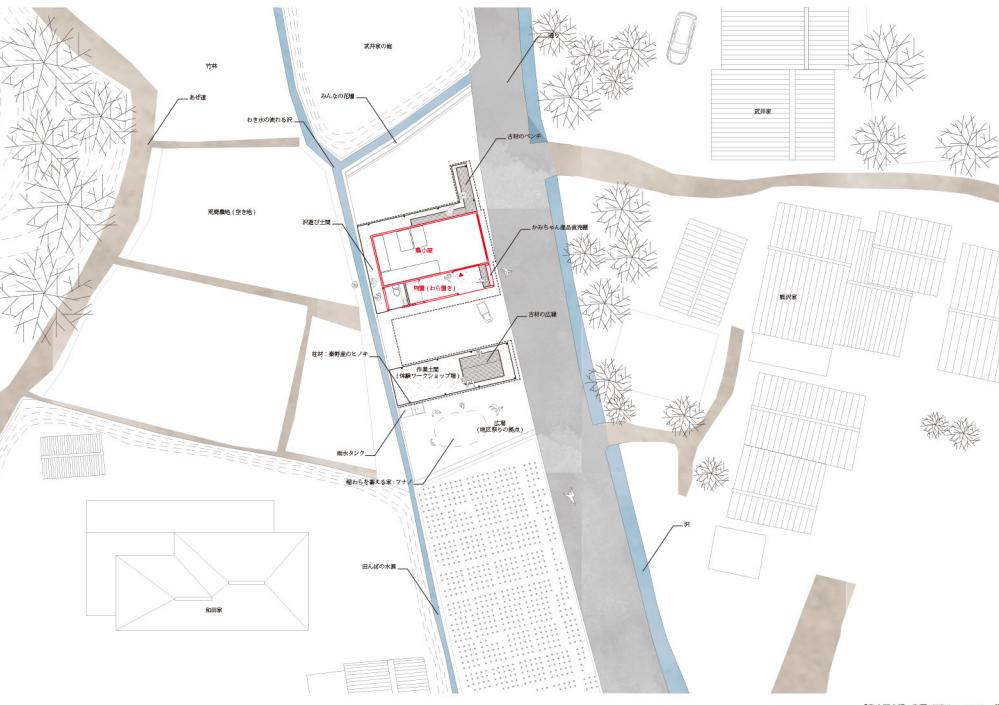
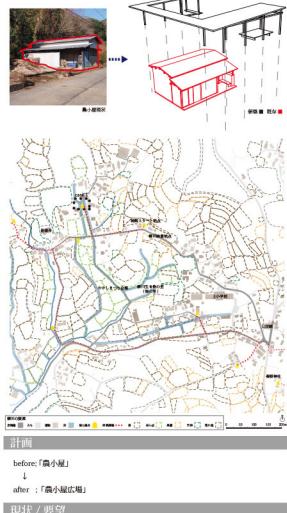
case 3 農作業の休憩所や地場産品直売所の設置



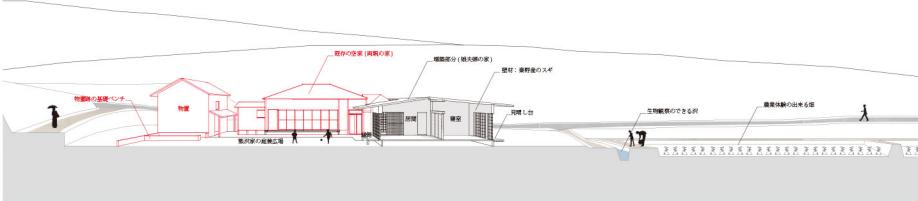
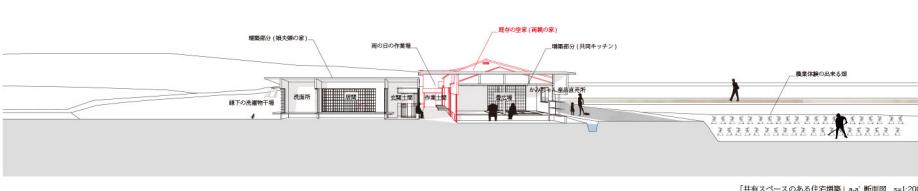
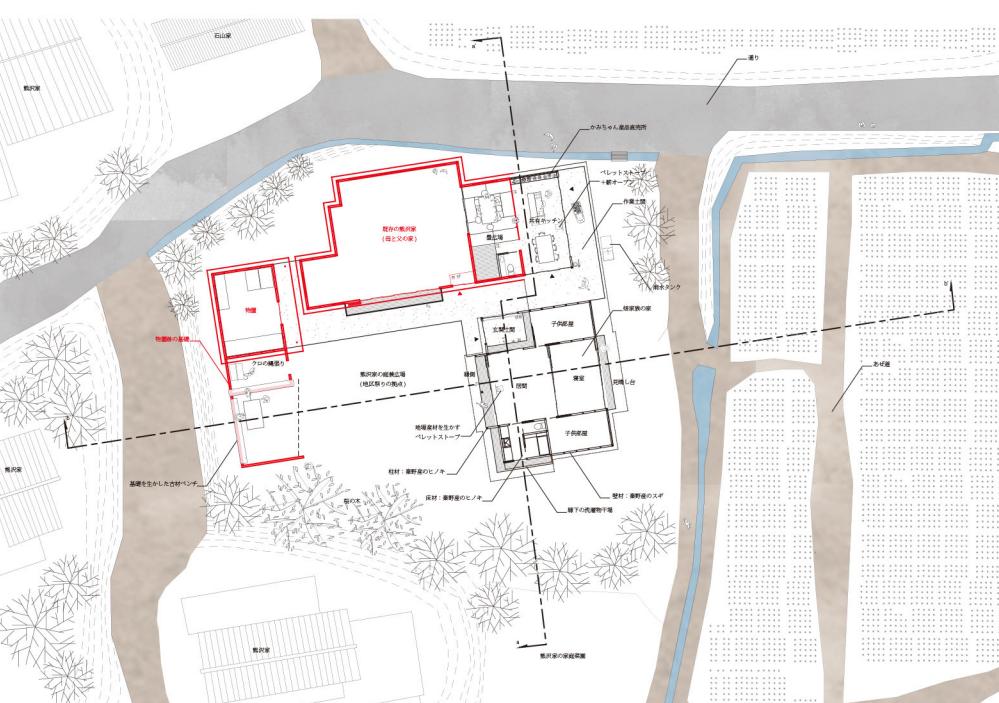
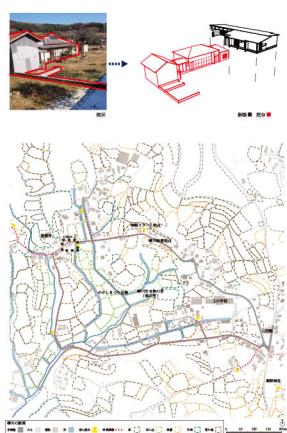
case 4 定住促進のための農家支援住宅の整備



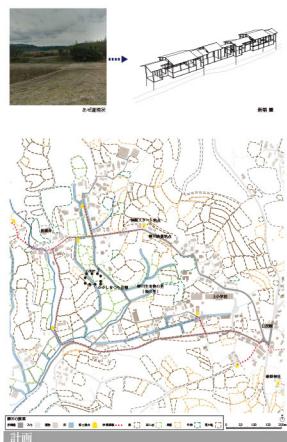
case 1



case 2



case 3

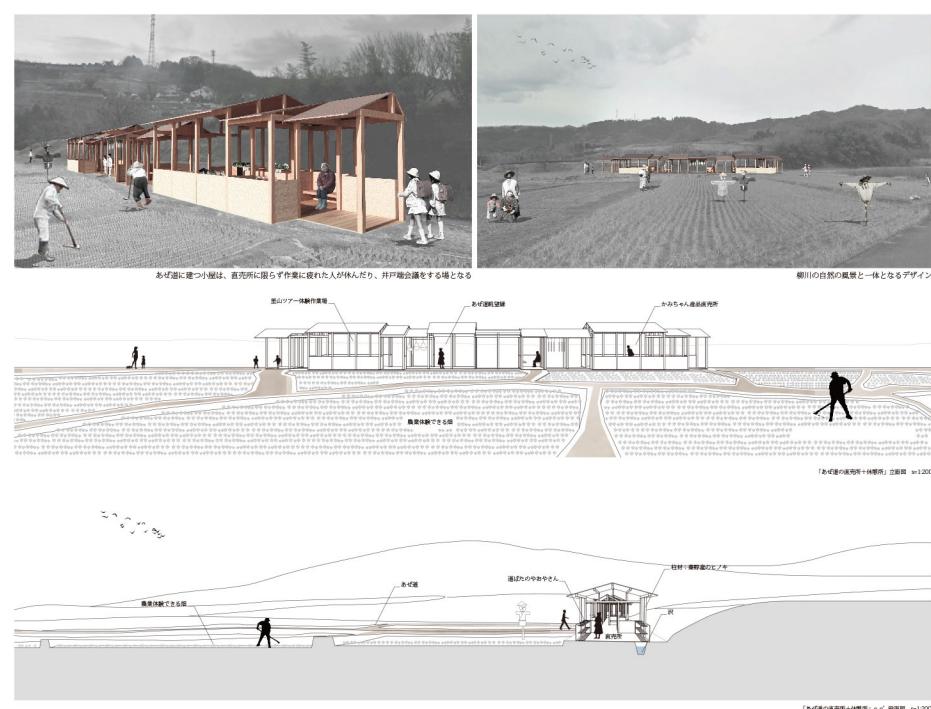
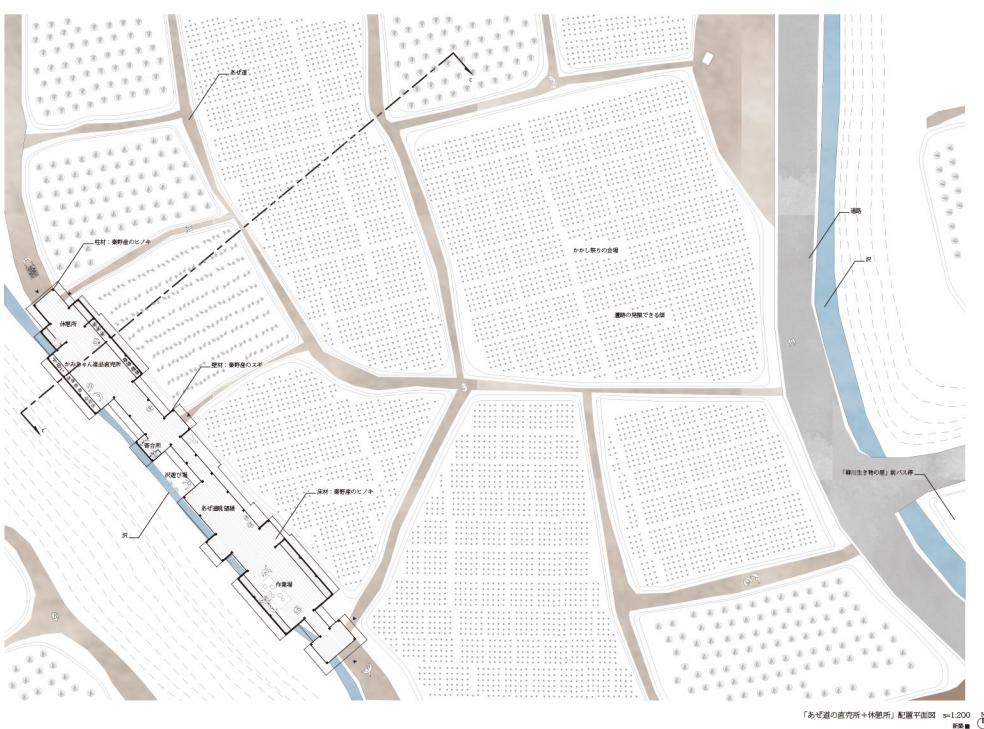


現状 / 要望

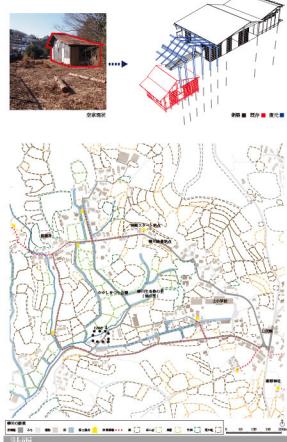
- 農作業の合間に休めるような場所がない。
- 農地跡や里山などのワークショップの拠点となるような場所が少ない。
- 散策途中に気兼ねなく休む場所がない(特に日差しとなるような場所)。
- 地元農家との交流による新たな地場産品直売所(青空市場、朝市等)の設置
- 増産競争を生じかねないハナキタグコースの整備及び強化づくり

提案

- ワークショップの活動拠点となる屋根付きの場所。
- 休憩時に利用出来る休む場所を設ける。
- 地元の地場産物が気軽に充実して見える直売所の設置。
- 柳川の風景の漏洩しさを改めて気付ける場所。



case 4



現状 / 要望

- 火事で残された部屋の一部を切り取ったまま残された空家
(ここに家があった記憶を残すため主張が保存)。
- 就寝希望者のための農地支障宅の整備
- 農業や採取や休憩など柳川を発見できるツアーアクセスによる住民促進

